

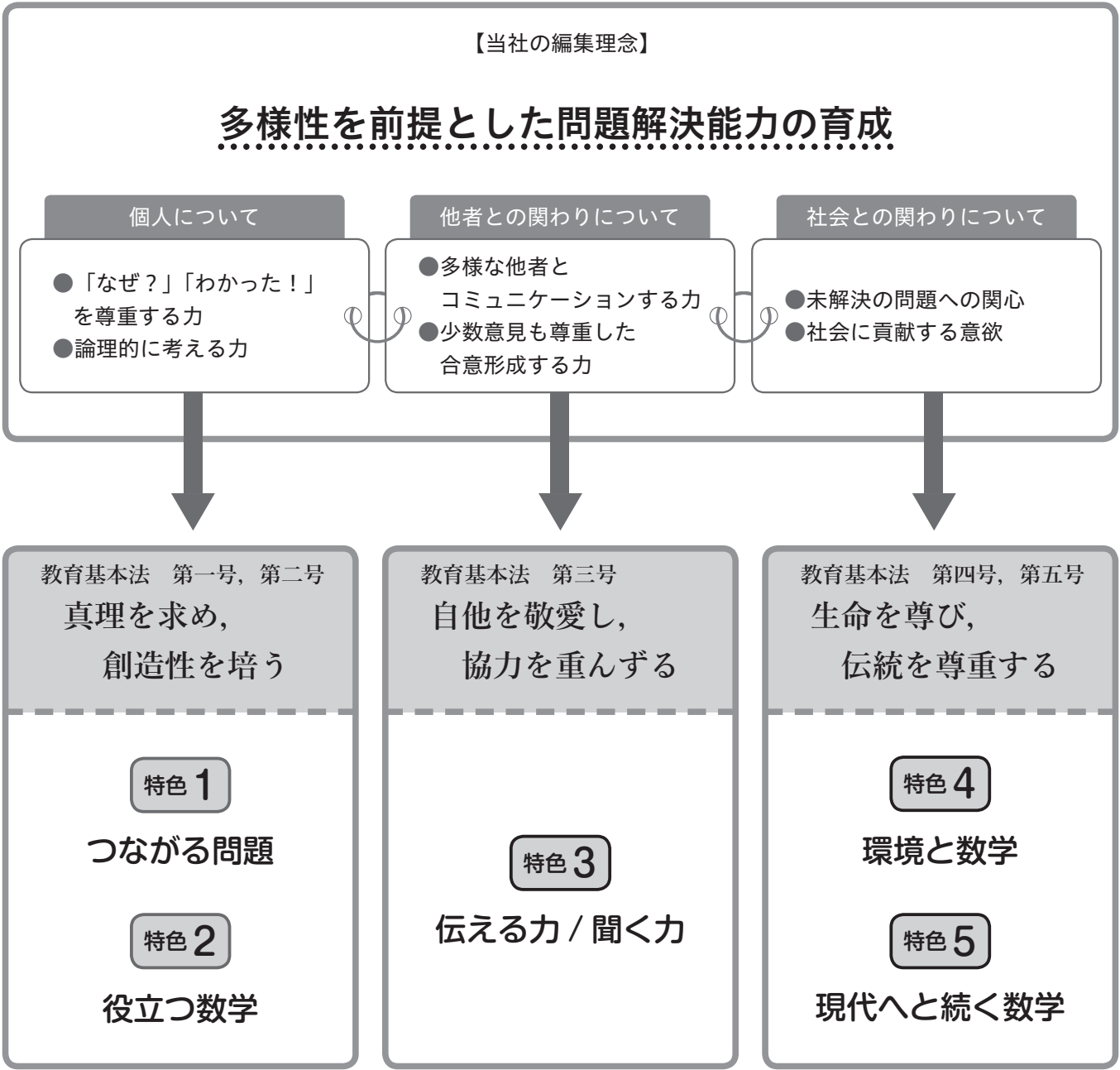
編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
31 - 55	中学校	数学	数学	2
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教 科 書 名		
11 学図	803	中学校数学 2		

1. 編修の基本方針

教育基本法を大前提として、資質・能力が育成されるよう、様々な工夫をこらして教科書を編集しました。



真理を求める態度を養う

特色 1

つながる問題

— 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。

身のまわりから、数学の学習の中から、自ら問題を発見し、それを数学の問題として考えていく中で、必要な知識や教養を身につけられるようにしました。そこから、数学だけでなく、生活の中における問題解決のための力を養うことや、問題を見直し、批判的に考察することで、真理を求める態度を養うことができるようにしました。

次の課題へ！

様々な疑問から問題を発見する場面を設定することで、**なぜ学習する必要があるか**が明確になり、また**見通しをもって学習**に取り組むことで、学習の動機づけを行うことができるようにしました。

QUESTION

自らが見つけた課題を、数学の問題として解釈し、場面を**モデル化**したり、**理想化**したりすることで、どのように解決していけばよいか**主体的・対話的**に考えながら、取り組むことができるようにしました。

見方・考え方

問題を解決するために、どのような「**見方・考え方**」をしていくのかという一つの目安を提示することで、今後の学習や生活に活用できるようにしました。

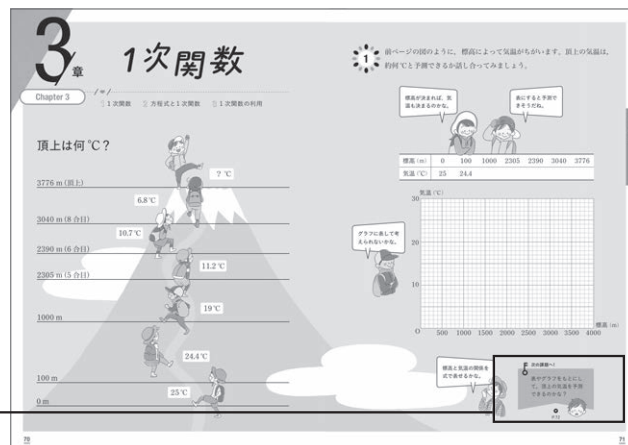
話し合いから目標

課題に対し、話し合いの場面を提示することで見いだされることを目標として設定し、自分たちが見つけた課題を解決していくという**意欲をもたせる**ことができるようにしました。

どんなことがわかったかな

自分たちが見つけた目標に対し、どんなことがわかったかをまとめ、その中から発見した新たな問題を入れることで、**学習のつながり**を意識しながら、**主体的に学習を深めていける**ようにしました。

次の課題へ！



▶ P.70 ~ 71

QUESTION 前ページの図で、標高を x m、気温を y °C とし、その関係をもとに、頂上の気温を予測することができますか。

見方・考え方 これまでと同じように、関数として考えられるかな。

標高が決まると、気温も1つに決まるから、気温は標高の関数といえるね。

どんな式で表せるのかな。

目標 ▶ ともなっていく2つの数量の関係を使って予測しよう。

▶ P.72

どんなことがわかったかな 身のまわりのことからは、1次関数とみなして考えられるものがあります。

次の課題へ！ 1次関数はどんな変化のしかたをするのかな？

P.74

▶ P.73

QUESTION 次の①～③の関数について、対応する x , y の値を、次の表のようにまとめました。

① 比例 $y=4x$

x	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
y	...	-12	-8	-4	0	4	8	12	...

② 反比例 $y=\frac{4}{x}$

x	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
y	...	$-\frac{4}{3}$	-2	-4	×	4	2	$\frac{4}{3}$	...

③ 1次関数 $y=4x+3$

x	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
y	...	-9	-5	-1	3	7	11	15	...

これらの関数について、 x の値が増えると y の値はどのように変化しているか気づいたことを話し合ってみましょう。

見方・考え方 それぞれの関数の特徴に着目できるかな。

1年で学んだ比例や反比例と1次関数はどこがかわるのかな。

▶ P.74

生命を尊び、自然を大切にする態度を養う

特色 4

環境と数学

環境や自然を守るために、自分たちが学んできた数学が活用できることに気づかせ、それを実際に生かしてみたいくなるような課題を設定することで、数学の有用性と環境の保全を意識できるように配慮しました。

四 生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うこと。

今の自分を知ろう

1年間の数学の学習を見直し、どんなところで数学で学んだ考え方が役立てられるか、**フェアトレード**の課題をもとにして、**パフォーマンス課題**に取り組むことができます。また、課題に対する**自己評価**もできるようにしています。

[illegible]

▶ P.216 ~ 217

0101_3

次の図1は、各国のウェアラード市場、図2は、日本とイギリスのウェアラード市場の成長率を示したグラフ。表1は、北米の通信キャリアーと消費者向けウェアラードメーカーを掲載しています。また、これらのウェアラードを取り、世界向けに売られるウェアラードとスマートフォンとの関係についても、図1で見ていきましょう。また、表2でそのうちいくつかピックアップし、その関係について見ていきましょう。

地域	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
日本	1.2	1.5	1.8	2.2	2.8	3.5	4.2	5.0
米国	1.0	1.2	1.5	1.8	2.2	2.8	3.5	4.2
中国	0.8	1.0	1.2	1.5	1.8	2.2	2.8	3.5
韓国	0.5	0.6	0.8	1.0	1.2	1.5	1.8	2.2
英国	0.3	0.4	0.5	0.6	0.8	1.0	1.2	1.5
ドイツ	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.8	1.0	1.2
フランス	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.8	1.0
イタリア	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.8	1.0
スペイン	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.8	1.0
ロシア	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.8	1.0
インド	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.8	1.0
ブラジル	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.8	1.0
インドネシア	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.8	1.0
オーストラリア	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.8	1.0
南アフリカ	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.8	1.0
中東	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.8	1.0
その他	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.8	1.0

年	日本 (%)	英国 (%)
2013	15	10
2014	20	12
2015	25	15
2016	30	18
2017	35	20
2018	40	22
2019	45	25
2020	50	28

Report

自分たちの身の周りの生活で、ウェアラード製品がどのくらい使われているか、ウェアラード製品とスマートフォンとの関係がどのくらいあるかを考えてみましょう。また、表2でピックアップしたところと、日本とウェアラード市場を比較するために考えてみましょう。

ウェアラードからできることを考えよう

学びの方向

目標達成を促すことのできるウェアラード製品

学習したことを活用できるウェアラード製品

学習の成果を共有できるウェアラード製品

考えたい、決めたい、書きたい

ウェアラード製品に関する、これまで学習した内容の活用が期待できるウェアラード製品

ウェアラード製品と、その関係性を活用できるウェアラード製品

ウェアラード製品に、関係するウェアラード製品を活用して、学習の成果を共有できるウェアラード製品

考えてみたいと思うようにしよう

ウェアラード製品、ウェアラード製品と、その関係性を活用できるウェアラード製品

ウェアラード製品と、その関係性を活用できるウェアラード製品

ウェアラード製品と、その関係性を活用できるウェアラード製品

もっと調べたいと思ったこと

ウェアラード製品に関する、これまで学習した内容の活用が期待できるウェアラード製品

ウェアラード製品と、その関係性を活用できるウェアラード製品

ウェアラード製品に、関係するウェアラード製品を活用して、学習の成果を共有できるウェアラード製品

▶ P.218 ~ 219

伝統と文化を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する

特色5

現代へと続く数学

五 伝統と文化を尊重し、それらははぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

数学は古代ギリシャの時代から脈々と受け継がれてきた学問であり、いま、自分たちが学んでいる数学は、それらの人々の様々な発見や発想の上に成り立っていると気づくことができるよう、日本だけでなく、世界における数学の歴史的な背景を取り上げました。

確率論の幕開け

フランスの数学者ブлез・パスカル(1623 ~ 1662)は、ある貴族から次のような質問を投げかけられました。

「AとBの2人が、先に3回勝つ方が勝ちとする勝負をする。Aが2回勝ち、Bが1回勝つところで勝負を中止した。AとBのなかの勝分の配分は、いくらずつにすれば公平か。」

この質問に対し、パスカルは、同じフランスの数学者であるピエール・ド・フェルマー(1607 ~ 1665)と手紙で意見交換をしながら問題を解決しました。

この手紙が、本格的な確率論の始まりといわれている。

ブлез・パスカル

ピエール・ド・フェルマー

● ● ●

▶ P.191

用語の由来「錯角」

 Tea Break

「^錯角」の意味は、「まじること、入りまじること」である。英語では、錯角のことを、
alternate interior angles (たがひがいの内側の角) という。つまり、錯角とは、2 直
線に 1 つの直線が交わるとき、2 つの直線の内側にできる
4 つの角のうち、^錯斜めに交差している角を意味している。



▶ P.111

作図と証明の歴史

エジプトの幾何学入門

元来 3000 年ほど前に発達していた古代エジプトでは、毎年の洪水による農作の再開や土地の測量など、日常生活のなかでも幾何学の知識が必要とされていました。その知識が手紙に「測量の書」と呼ばれるものとして、いまと同じ程度で世界最古のものとなつた古本を残して見えています。

また、測量の書が広く利用されて、南北赤道西緯度も定められたと推察され、日食や冬至などの天体の観測方法によって知られたといわれています。

geo (土曜), metry (測量) など、「geometry」(幾何学) おもにこの語の性質を研究する語目ということがされました。

はじめて証明をしたタレス

紀元前 6 世紀になると、ギリシアの哲学者・数学者タレス (紀元前 624 年 - 紀元前 547 年) は、世でエジプトに旅行し、幾何学や都市設計などの技術を学んで帰国しました。エジプト人は土地の測量に用いて使っていた方法、タレスそれらが論理に基いていことを証明しました。

その内容は、タレスが証明したものについてです。

- ① 直線角によって二等分されます。
- ② 二等分角の 2 つの辺角は等しい。
- ③ 対頂角は等しい。
- ④ 2 つの三角形は、1 辺の 1 つの角がそれぞれ等しければ何れである。

バスカルとフェルマーになつてみよう

バスカルは貴族のメロから、191 ページになるような質問を受け付けられた。バスカルは、数学者のフェルマーと手紙で交流しながら、この質問を解決しました。人々の目から驚かすように正確に解らなくとも、バスカルはフェルマーになつてみようと、この質問を解決して見ました。

① バスカルはフェルマーは、手紙の取り方の中、人、2 人の 2 つの点と勝利する問題をそれぞれ決めた。その解法は 2 つの点の間に使われている 1 つの距離を求めた。勝利は 2 つの点の間で決まらなければならない。バスカルは 2 つの点の間で決まらなければならない。5 日間で勝利を達成したとき、A が勝利する場合はバスカルであるという。A の勝利の確率を求め、求めてみよう。

4 問目 5 問目

A が 2 問目
B が 1 問目

$$\begin{matrix} \times \\ \times \end{matrix}$$

A の勝利を $\times$ とし、B の勝利を $\circ$ とする。

② したがってこの問題をもとにして、次のような勝利表を作られてみようとしました。

③ 最も長い、メロの質問に対して、2 次までの勝利表をつつて、A が勝利する問題をそれぞれ求めた。最も長い考え方を説明してみよう。

4 問目 5 問目

A が 2 問目
B が 1 問目

$$\begin{matrix} \times & \times & \frac{1}{2} \\ \times & \times & \times \\ \times & \times & \frac{1}{4} \end{matrix}$$

A の勝利を $\times$ とし、B の勝利を $\circ$ とする。

④ メロの質問と同じように、先に 3 問目について勝利表を作るとすると、A が 3 問目した時点で勝利を中止した。かたは A と B の間でどのようにするの公平な方法でしょうか。

▶ P.236 ~ 237

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
全章	男女生徒の名前はすべて「さん」づけとしました（第三号）。 自分の考えを説明したり、話し合ったりする活動を取り入れました（第二号）。 学習中に抱くであろう生徒の問いを取り上げ、それを解決していこうとする姿勢を養うようにしました（第一号）。	全般 14 ページ他 51 ページ他
1 章 式の計算	式の値を考える際、他者の考えを読み取る活動を取り入れました（第二号）。	25 ページ
2 章 連立方程式	資源回収に関する教材を取り上げることで、自然を大切にする態度を養うことができるようにしました（第四号）。 発展的な課題として GPS についての話題を取り上げ、そこに連立方程式の考え方が取り入れられていることに触れることができるようにしました（第二号）。 CT スキャンと連立方程式の関わりを示すような題材を取り上げることで、医療と数学との関連を見いだすことができるようにしました（第二、四号）。	61 ページ 67 ページ 68 ページ
3 章 1 次関数	公共のスロープの傾きについての話題を取り上げました（第一、三号）。 ダイアグラムについて、1 次関数のグラフとみなすことで、電車の運行について考察することができる課題を取り上げました（第二号）。 文集を印刷するときにかかる金額について、グラフを利用していくつかの印刷所の料金の比較をすることができる課題を取り上げました（第二号）。 ガソリン車とハイブリッド車にかかるそれぞれの金額について、年ごとにグラフを利用して考察する課題を取り上げました（第二、四号）。	80 ページ 101 ページ 104 ページ 106 ページ
4 章 図形の性質の調べ方	図形の性質に関連して、トラス構造でつくられている建造物を取り上げました（第三号）。	144 ページ
5 章 三角形・四角形	さまざまな遊具から、いろいろな図形がその性質を生かして利用されていることに気づけるようにしました（第二号）。 図形の性質を利用したワイパーの形について取り上げました（第二号）。	146 ～ 147 ページ 174 ページ
6 章 確率	ダランベールの誤りや、確率論の幕開けについての課題を取り上げました（第五号）。 確率と迷惑メールの関係を取り上げました（第三号）。	187, 191 ページ 196 ページ
7 章 データの分布	様々な地域の降水量の違いについて取り上げ、考察できるようにしました（第四号）。 メルボルンと東京の日ごとの最高気温を比較する課題を取り上げました（第四、五号）。	198 ～ 199 ページ 206 ～ 208 ページ
さらなる数学へ ～協働学習のページ～	SDGs に関連して、フェアトレードについて取り上げ、社会において自分たちに何ができるかを考察することができるようにしました（第二、三、四、五号）。 表現する力を身につけるためのレポート活動を取り上げ、レポート発表における発表する者とそれを聞く者の注意点を示しました（第一、二、三号）。 日本の年平均気温の平年差の変化や、東京の年平均気温の変化を示したグラフを 1 次関数と関連させて扱いました（第四号）。 点字のしくみについて、確率と関連づけて扱い、その利便性などが理解できるようにしました（第一、三号）。	216 ～ 219 ページ 220 ～ 223 ページ 226 ～ 227 ページ 228 ～ 229 ページ
口絵	数学を役立てている職業の人のコラムを掲載することで、数学が自分たちの生活に生きていることを実感できるようにするとともに、主体的に社会の形成に参画しようとする態度を養うことができるようにしました（第二、三号）。	表見返し

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 学校教育法第二十一条六の目標を達成するために、7 章「データの分布」では、生活に関わるデータを取り上げ、データの取り扱い方を理解するとともに、コンピュータを用いて能率的に処理できるように配慮しました。
- 学校教育法第二十一条七の目標を達成するために、3 章「1 次関数」の中で、水温の上昇について取り上げ、科学に対する基礎的な能力を養うようにしました。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
31 - 55	中学校	数学	数学	2
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教 科 書 名		
11 学図	803	中学校数学 2		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

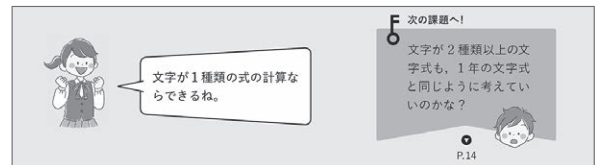
1 主体的・対話的で深い学びを実現するために

① 主体的な学びの実現

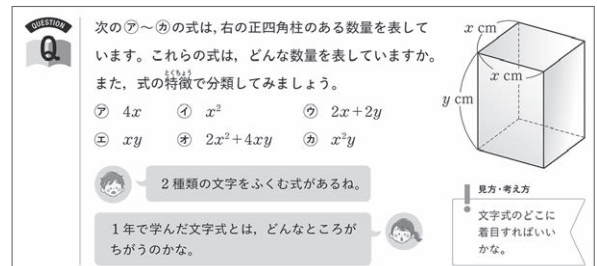
章の導入で、新しい学習内容への興味・関心が得られるよう、身近な題材を扱い、自然に出される疑問を発見し、それについて考えてみたいという意欲を引き出し、「次の課題へ!」として提示しています。

その疑問を受ける形で、「Q」として数学の問題におきかえ、これからどんな学習をすればよいかという「目標」を、自分たちの言葉で表し、学習を進めていきます。

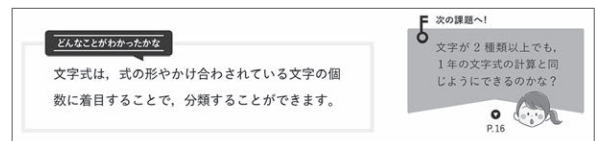
ある程度の学習を終えた段階で、「どんなことがわかったかな」としてこれまでの学習をまとめ、さらにそこから出される「次の課題へ!」とつなげていくことで、自分たちの疑問を解決する形で学習が進められるという主体的な学びが実現できるようにしています。



▶ P.13



▶ P.14



▶ P.15

② 対話的な学びの実現

「Q」では、つねに話し合い活動を取り入れ、その話し合いから学習の目標を立てることで、対話的な学びが実現できるようにしています。

また、「数学的活動のページ」では、問題発見から課題解決を通して話し合いをベースに考え、さらに新たな問題を発見する過程を示すことで、対話的な学びが実現できるようにしています。



▶ P.188 ~ 189

③ 深い学びの実現

「数学的活動のページ」では、問題を発見し、解決する過程を示していますが、さらに新たな問題を発見したり、条件を変えて考えたりできるような問いかけを示すことで、深い学びが実現できるようにしています。

また、章末の「深めよう」、巻末の「疑問を考えよう」などの課題を通して、章ごとの学習だけではなく、領域横断、教科横断的な学習に取り組むことができるようにしています。



▶ P.175

▶ P.224

2 資質・能力を育むために

① 基礎・基本を含む知識・技能の育成

本文中の「例」では、適切な箇所にノート形式の解答を示し、模範的な解答の書き方を示しました。ノートを書く際に気をつける点についても同時に示すことで、基礎・基本を身につけることができるようにしました。

問の中で適宜、誤答問題である「正しいかな?」を設定し、誤りやすい箇所などを明確にすることで、さらなる習熟が図れるようにしました。

「計算力を高めよう」、「確かめよう」では、どこで学んだ学習であるかを明確にすることで、つねにふりかえって学習に立ち戻れることを示しました。

② 思考力・判断力・表現力等の育成

「数学的活動のページ」では、身のまわりの事象の中から問題を発見し、考察したり、性質を見いだしたりすることで、統合的・発展的に課題を解決していくことができるようにしました。

また、本文中の「問」や章末の「活用問題」では、論理的に思考したり、問題文から必要な情報を取捨選択したり、それを説明したりするといった課題を取り上げました。

③ 学びに向かう力・人間性の育成

章の学習の最後に、「できるようになったこと」として、これまでの学習からどんなことができるようになったか、自分で判断できるようにしています。また、「さらに学んでみたいこと」を自分のことばで記入することで、もっと学んでみたいという意欲をもたせられるようにしました。

本文中の「おしえて!」では、学習の中で子どもが自然に感じるであろう疑問を取り上げ、その答えの1つとして「Tea Break」でコラムを掲載しています。

巻末の「今の自分を知ろう」では、SDGsを取り上げ、その中から自分たちができることが何かを考察し、生活にいかに関与できるかを実感できるようにしました。

例 1 連続する3つの整数の和は3の倍数であることを、文字式を使って説明しなさい。

考え方 連続する3つの整数を文字を使って表し、それらの和が $3 \times (\text{整数})$ の形で表されることを示す。

解答

連続する3つの整数のうち、もっとも小さい整数を n とすると、連続する3つの整数は、 $n, n+1, n+2$ と表される。それらの和は、	目的に応じて、分配法則を使って $3(n+1)$ の形に直す
$n + (n+1) + (n+2)$	
$= 3n + 3$	
$= 3(n+1)$	

$n+1$ は整数だから、 $3(n+1)$ は3の倍数である。
したがって、連続する3つの整数の和は3の倍数である。

▶ P.26

問 8 あつき 美月さんは、 $(2x+y)-(3x-y)$ の計算を右のように行いました。 $x=2, y=1$ のときの最初の式の値と結果の式の値を求め、正しいかどうか確かめなさい。

正しいかな?

$(2x+y)-(3x-y)$
$= 2x+y-3x-y$
$= -x$

▶ P.18

平行四辺形にどんな条件を加えれば、長方形、ひし形、正方形になるかを考えてみましょう。

辺の長さや角の大きさが等しいときに、はかばか四角形になるかな。

□ABCDに、次の条件を加えれば、それぞれどんな四角形になるでしょうか。
① $AB=BC$ ② $\angle A=90^\circ$

美月さんは、①について、この四角形はひし形になると考え、次のように説明しました。

平行四辺形の対辺は等しいから、 $AB=DC, AD=BC$ である。これに、 $AB=BC$ 、つまり、となり合う辺が等しいという条件を加えると、4つの辺がすべて等しくなる。したがって、□ABCD はひし形になる。

②について、この四角形が長方形になると説明してみましょう。

平行四辺形が長方形やひし形になるためには、はかにどんな条件があるでしょうか。また、正方形になるためには、さらにどんな条件を加えればよいでしょうか。条件を考え、その理由をそれぞれ説明してみましょう。

11205

対角線を使って考えられるかな。

長方形やひし形、正方形は、平行四辺形になるための条件を満たしているため、平行四辺形であるともいえることができます。

▶ P.169

3章「1次関数」を学んで

できるようになったこと

- ☒ 2つの数量 x と y の関係が $y=ax+b$ で表されるとき、 y は x の1次関数であることが理解できる。
- ☒ 1次関数の変化の割合は一定で、グラフが直線になることを理解して、直線の式を求めることができる。
- ☒ 連立方程式の解は、2つの2元1次方程式をグラフに表し、そのグラフの交点から求めることができる。
- ☒ 身のまわりや数学の中から見つけた2つの数量の関係を、1次関数とみなして、解決に利用することができる。

さらに学んでみたいこと

これらもっと学んでみたいことや、疑問に思ったことを書いておこう。

▶ P.105

▶ P.216 ~ 217

今の自分を知ろう

Sustainable Development Goals

SDGsは17の目標があり、これまでに掲げた数々の目標を継いで、世界に実現されるべき目標です。

SDGsは17の目標があり、これまでに掲げた数々の目標を継いで、世界に実現されるべき目標です。

SDGsは17の目標があり、これまでに掲げた数々の目標を継いで、世界に実現されるべき目標です。

フェアトレードからできることを考えよう

フェアトレードとは、発展途上国の生産者や労働者に適正な対価を支払うことを目指す取り組みです。

フェアトレードからできることを考えよう

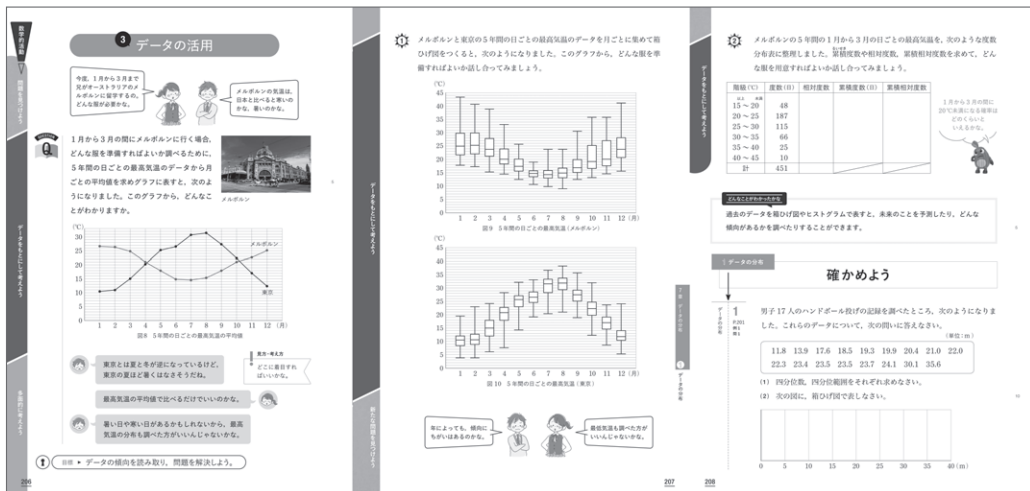
フェアトレードからできることを考えよう

▶ P.218 ~ 219

3

「**数学的活動のページ**」では、「算数・数学の学習過程のイメージ」を具現化し、1つの課題に対する問題発見から解決までの過程が見えるよう、ページの左側に、いま、どのような過程で学習しているかが明確になるようにしました。さらに、サイクルが1周だけではなく、2周、3周、…と続いていくことで数学的活動が充実できることを示すために、新たな問題を見つけたり、疑問を考えたりするようにしました。

1つの課題だけでなく、本文の展開も、自分たちで見つけた課題「次の課題へ!」から「目標」を発見し、学習を進めて「どんなことがわかったかな」でまとめ、また新たな「次の課題へ!」とつながっていくような展開にしているため、学習全体が数学的活動として展開できるような配列にしています。

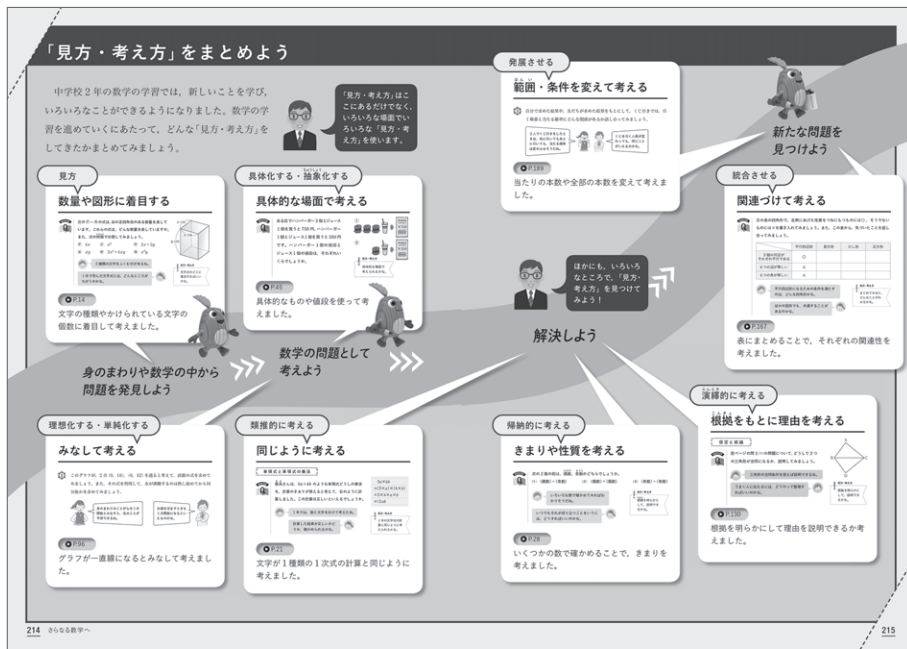


▶ P.206 ~ 208

4

導入問題である「**Q**」では、問題に対してどのような見方・考え方をしていくのかを側注として明示することで、着実に様々な見方・考え方ができるようになっていき、その他の数学や社会の問題においても、見方・考え方を働かせることができるようにしました。

また、巻末ではこれまでの「見方・考え方」をまとめた『「見方・考え方」をまとめよう』を掲載することで、「見方・考え方」にはいろいろな観点があることが明確になり、より深い理解につなげることができるようにしました。

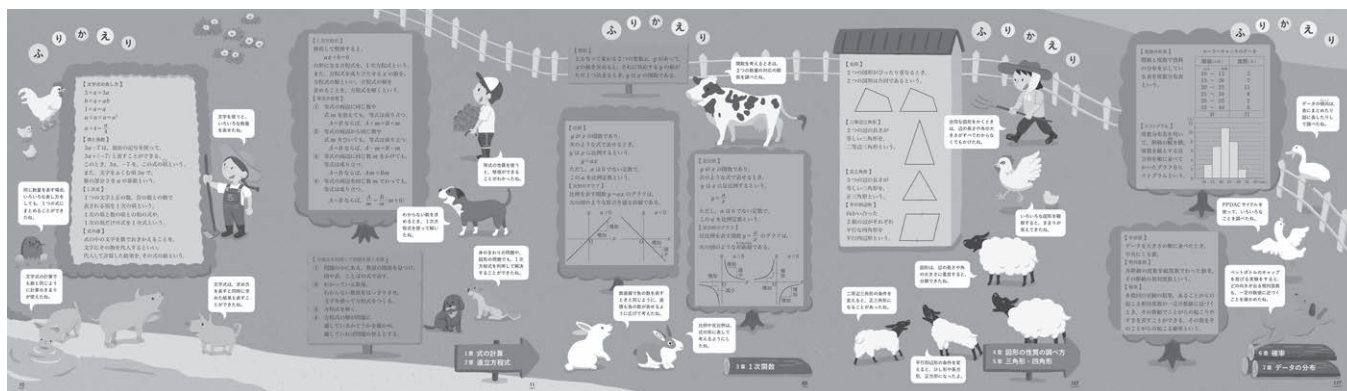


▶ P.214 ~ 215

5 様々な課題に対応するために

① 小中連携

各領域ごとに「ふりかえり」のページを挿入し、小学校でどんなことを学んできたかふりかえることで、スムーズにその学年の学習に入っていけるようにしました。



▶ P.10-11

▶ P.69

▶ P.107

▶ P.177

② キャリア教育

キャリア教育の一環として、表見返しに「数学の力」、章末に「役立つ数学」のコラムを掲載することで、数学が身のまわりなどで役立つことを実感し、学びに向かう意欲を喚起するようにしました。

③ プログラミング教育

裏見返しに「プログラミングを体験してみよう」のページを設定することで、論理的な思考の大切さやICT活用の重要性に気づくことができるようにしました。

④ SDGs

持続可能な開発目標（SDGs）に触れることで、国際的な課題に取り組むことができるよう、パフォーマンス課題として、「今の自分を知ろう」を設定しました。学習の最後にループリックによる自己評価表を掲載しており、1年間の学習を総括できるように配慮しました。

6 教科書の工夫

① この教科書を使った数学の学び方

巻頭で「この教科書を使った数学の学び方」を掲載し、どのように学習を進めていくか、典型的な例を示しています。

② アイデアボード

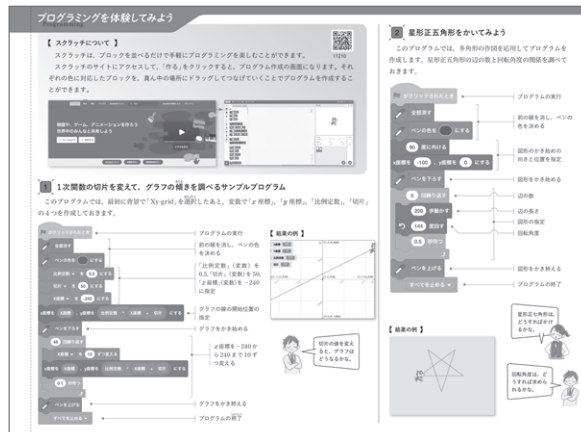
裏見返しにホワイトボードマーカーで書いたり消したりできるページを添付しました。個人で考察する際や、グループで考えを出し合う際などに役立てることができます。

③ ユニバーサルデザイン

特別支援教育の専門家による指導のもと、ユニバーサルデザインに配慮した紙面づくりを行っています。



▶ 表見返し



▶ 裏見返し

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
1 章 式の計算	A (1) ア (ア)	14 ～ 23 ページ, 25 ページ	15
	A (1) ア (イ)	26 ～ 31 ページ	
	A (1) ア (ウ)	26 ～ 31 ページ	
	A (1) ア (エ)	32 ～ 33 ページ	
	A (1) イ (ア)	16 ～ 23 ページ	
	A (1) イ (イ)	12 ～ 13 ページ, 26 ～ 31 ページ	
2 章 連立方程式	A (2) ア (ア)	40 ～ 43 ページ	14
	A (2) ア (イ)	42 ～ 44 ページ	
	A (2) ア (ウ)	45 ～ 53 ページ	
	A (2) イ (ア)	42 ～ 46 ページ	
	A (2) イ (イ)	57 ～ 63 ページ	
3 章 1 次関数	C (1) ア (ア)	70 ～ 86 ページ	20
	C (1) ア (イ)	70 ～ 73 ページ, 95 ～ 99 ページ	
	C (1) ア (ウ)	87 ～ 93 ページ	
	C (1) イ (ア)	70 ～ 73 ページ, 87 ～ 91 ページ, 95 ～ 99 ページ	
	C (1) イ (イ)	95 ～ 99 ページ	
4 章 図形の性質の調べ方	B (1) ア (ア)	110 ～ 114 ページ	19
	B (1) ア (イ)	115 ～ 123 ページ	
	B (1) イ (ア)	110 ～ 114 ページ	
	B (2) ア (ア)	125 ～ 129 ページ	
	B (2) ア (イ)	130 ～ 139 ページ	
5 章 三角形・四角形	B (2) ア (イ)	148 ～ 169 ページ	20
	B (2) イ (ア)	148 ～ 169 ページ	
	B (2) イ (イ)	146 ～ 147 ページ, 163 ページ, 167 ～ 169 ページ	
	内容の取扱い (1)	167 ～ 169 ページ	
6 章 確率	D (2) ア (ア)	178 ～ 184 ページ	11
	D (2) ア (イ)	185 ～ 190 ページ	
	D (2) イ (ア)	185 ～ 190 ページ	
	D (2) イ (イ)	185 ～ 190 ページ	
7 章 データの分布	D (1) ア (ア)	198 ～ 201 ページ	6
	D (1) ア (イ)	198 ～ 208 ページ	
	D (1) イ (ア)	206 ～ 208 ページ	
計			105

編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
31 - 55	中学校	数学	数学	2
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教 科 書 名		
11 学図	803	中学校数学 2		

ページ	記述	類型	関連する学習指導要領の内容や 内容の取扱いに示す事項	ページ数
54 ～ 55	3つの文字をふくむ方程式を解こう	1	A (2) ア (ウ) 簡単な連立二元一次方程式を解くこと。	2
67	GPS と連立方程式の関係	1	A (2) イ (イ) 連立二元一次方程式を具体的な場面で活用すること。	0.5
68	CT スキャンと数学	1	A (2) イ (イ) 連立二元一次方程式を具体的な場面で活用すること。	1
195	同じ誕生日の人がいる確率	1	D (2) イ (ア) 同様に確からしいことに着目し、場合の数を基にして得られる確率の求め方を考察し表現すること。	1
205	平均値と外れ値	1	D (1) ア (ア) 四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味を理解すること。	1
230 ～ 231	どちらが有利？	1	D (2) イ (イ) 確率を用いて不確定な事象を捉え考察し表現すること。	2
237	パスカルとフェルマーになってみよう	1	D (2) イ (イ) 確率を用いて不確定な事象を捉え考察し表現すること。	1
合計				8.5